

特異火災原因事例シリーズ

⑧

洗面化粧台の配線が
結露により出火に至った事例

千葉県消防局

1 はじめに

近年は、D I Y (Do it Yourself) という言葉が定着し、専門業者に頼らずに、自分で自宅の内装設置や修理をすることも一般的となり、また、ホームセンター等でも容易に住宅用設備を購入することが可能となっているが、一方、不適切な施工方法に起因する火災事案も発生しており、施行者の注意だけでなく、メーカー側からの適正な施工方法の指示も重要となってくる場所である。

本件火災は本来壁面に設置するはずの洗面化粧台を、メーカー側では想定していなかった窓部に設置したため出火に至った事例であり、メーカーと合同の鑑識見分及び指導の結果、取扱説明書への注意書き事項追加等の改善に至った事例である。

2 火災の概要

(1) 出火日時

平成20年11月 16時頃

(2) 出火場所

千葉市内 一般住宅脱衣所内

(3) 火災種別

建物火災

(4) 焼損程度

ほや

(5) 被害状況

人的被害：なし

物的被害：洗面化粧台1基焼損、内壁及び窓枠若干焼損

(6) 気象状況

天候：晴 風向：北東 風速：4 m

相対湿度：59% 実効湿度：67%

気温：16℃ 気圧：1019hPa 警報・注意報：なし

3 発見時の状況

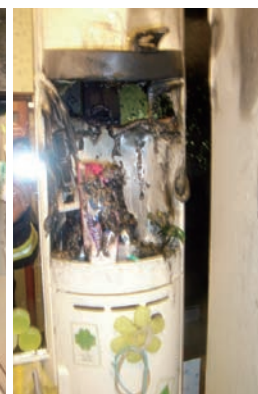
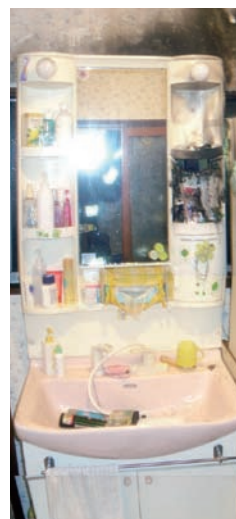
- (1) 居住者は出火当時、電気ストーブを脱衣所の床に置き、スイッチを「850W」に合わせ、電源コードを洗面化粧台のコンセントに差し温風を出した状態で放置していた。
- (2) 7～8分程度経つと、焦げ臭さを感じたため脱衣所を確認したところ、洗面化粧台のコンセントから30cm程度の炎が上がっていた。
- (3) 風呂場の洗面器で浴槽のお湯を汲んで、消火したところ、すぐ消えた
- (4) 洗面化粧台は7年前にホームセンターで購入したものを自分で設置した。

4 見分状況

(1) 現場の状況

現場は一般住宅の風呂場の脱衣所内であり、壁面に設置されている洗面化粧台が焼損している（写真1）。

洗面化粧台は向かって右側中段のトレーが焼損し、洗面化粧台右上方のクロスには煤が付着している（写真2）。



▲写真2 トレー部分の焼損状況

◀写真1 焼損した洗面化粧台

焼損したトレーにはスイッチパネルが設置されており、スイッチパネルのコンセントにはトリプルタップが接続されている（写真3）。



写真3 トリプルタップ



写真4 電気ストーブ及び電動歯ブラシの接続状態



写真5 各機器のプラグ部分



写真6 洗面化粧台のプラグ部分

トリプルタップには電動ハブラシと電気ストーブ（850W）が接続されているが、トリプルタップ及び各機器のプラグには溶融等は認められない（写真4、5）。

また、壁付けコンセントに接続された、洗面化粧台本体の電源コード・プラグに焼損は認められない（写真6）。

洗面化粧台を壁面から取り外すと、背面は腰高窓となっており、窓枠には洗面化粧台を木ネジで固定するための板2枚が取付けられている。2枚の板の内、右側の板の上方は炭化しており、さらにその上方の壁には煤が付着している（写真7）。洗面化粧台の詳細な見分についてはメーカーの立会・配線図等の準備が必要と考え、日時を改めて実施することとした。



写真7 洗面化粧台が設置されていた腰高窓

(2) メーカー立会いによる鑑識見分

発災から約1か月後、洗面化粧台を詳細に見分するため、消防署において、メーカー担当者の立会いの下、鑑識を実施した。

① 正面からの外観

正面から見分すると、洗面化粧台は中央に鏡が設置され、鏡の左右にそれぞれ3段の洗面用具のトレーが設置されて

おり、向かって右側の下段のトレーのみ扉が設置され、歯ブラシ入れとなっている。上段のトレー上方には左右とも照明の電球が取り付けられている。

右側中段の洗面用具トレー付近は焼損・溶融しており、



写真8 洗面化粧台正面側

一部焼け抜けて、後方が見通せる。また焼け抜け箇所の左端から下方に向かってスイッチ2基とコンセント1口が並んだパネルが溶融・変形し垂れ下がっている。右側上段の洗面用具トレー及び照明電球には煤が付着しているが原形をとどめている（写真8）。

焼け抜け箇所付近には、被覆が炭化した配線が複数本認められる。配線を至近で見分すると、一部断線しており、断線箇所には溶融痕が複数確認できる（写真9、10）。

なお、正面側の他の箇所に焼損は認められない。

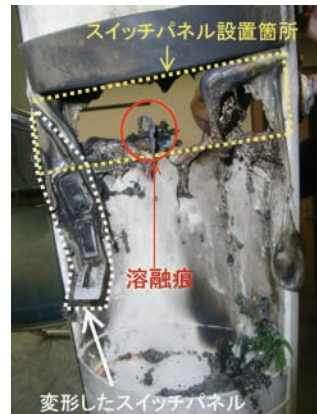


写真9 トレー部分の焼け抜け箇所 (左)

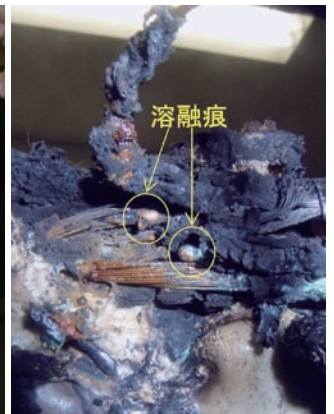


写真10 トレー部分の配線の溶融痕 (右)

② 背面からの外観

洗面化粧台を背面から見分すると、向かって左側上方が焼損・溶融し一部炭化しており、焼損箇所の下端は焼け抜け、前方が見通せる状態である（写真11、12）。



写真11 洗面化粧台背面側 (左)

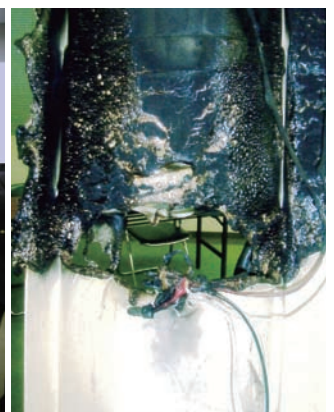


写真12 トレー部分の焼け抜け箇所 (右)